

平成21年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 アカガレイ

学名 *Hippoglossoides dubius*

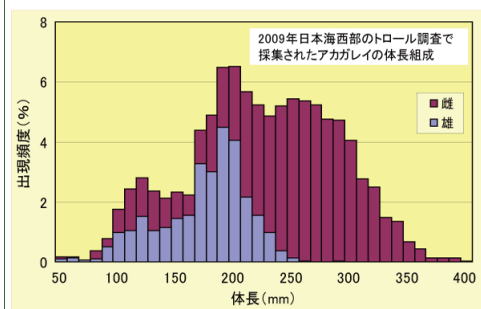
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 詳細は不明であるが、京都府沖の50%成熟体長は雌25cm、雄17cm
産卵期・産卵場: 2~4月に水深180~200mで産卵、主な産卵場は粟島北方、経ヶ岬西部、隠岐諸島東側等、各地の沖合に局所的に存在
索餌期・索餌場: 周年、分布域全体(水深150~900m)
食性: クモヒトデを周年摂餌するが、ホタルイカモドキ類やオキアミなどのマイクロネクトンが増えると、それらを主に捕食
捕食者: 幼稚魚は不明であるが、成魚の捕食者はいない

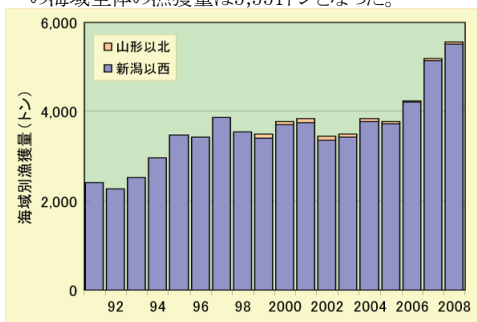


漁業の特徴

日本海のアカガレイの90%以上は沖合底びき網または小型底びき網で漁獲されている。残りは刺し網による漁獲である。底びき網漁業はアカガレイの季節的な移動に合わせて、分布域全体で行われる。

漁獲の動向

1991年以降の新潟以西の漁獲量を見ると、1992年に最低となった後増加し、1995年以降は3,000トン台で推移していた。卓越年級群が漁獲加入した2004年以降は増加傾向にあり、2008年は漁獲量の把握可能な過去18年間で最高となった。海域全体が把握可能な1999年以降を見ても、動向は新潟以西のみを見た場合と変化なかった。2008年の海域全体の漁獲量は5,551トンとなった。

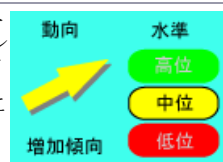


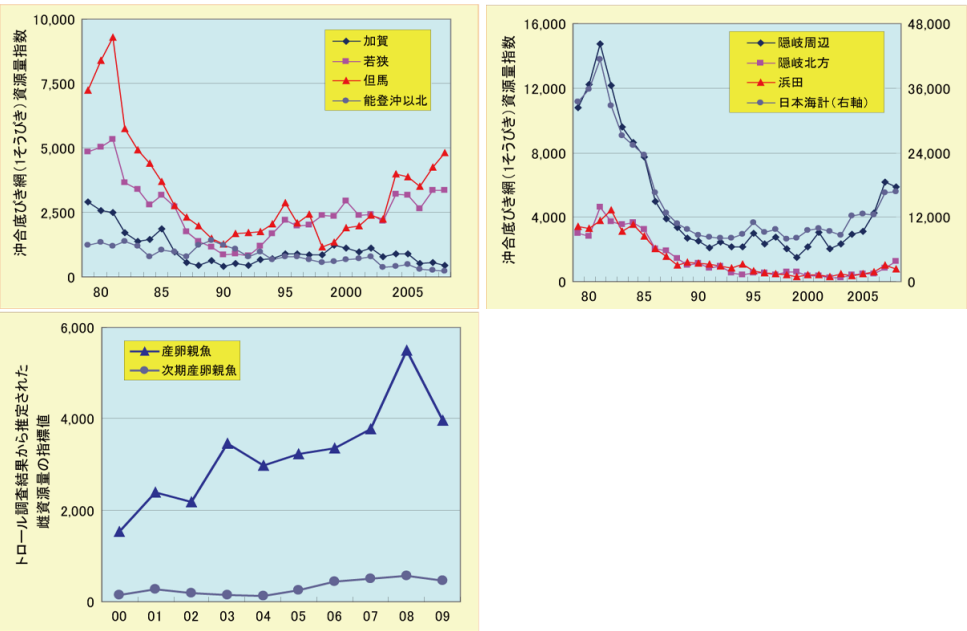
資源評価法

漁獲量、沖合底びき網の統計値(漁獲量・資源量指数)の推移および日本海西部海域で行われている着底トロールの結果(面積密度法で計算した資源量の指標値の推移)から資源評価を行った。

資源状態

卓越年級群の加入により漁獲量は1990年代前半の約2倍程度まで増加し、各海域の沖合底びき網資源量指数も最低値の2~3倍程度まで増加している。また、2009年着底トロール調査結果を見ると、資源量の指標値は2008年より減少していたが、2007年以前よりは大きな値となっていた。これらのことから資源状態は良好と判断される。しかし、現在の総漁獲量(5,550トン)は、沖合底びき網だけで5,000トン以上が漁獲されていた1980年代前半には及ばないため、水準は中位とした。また、近年の資源量指数が増加傾向であるため、動向は増加とした。





管理方策

日本海西部の資源状態は良好であるが、成熟体長を再検討した結果、2001年級群の多くの個体は、2008年産卵期には既に成熟したと思われた。アカガレイは成熟すると成長が著しく鈍るため、2001年級群の成長による資源量の増加は近々頭打ちとなると考えられる。また、2001年級群以降、2001年級群並に豊度のある年級群は存在しないことから、今後資源尾数を大きく増加させる要因は無いと思われる。漁獲圧は低下傾向にあるが、今後も過度に漁獲圧をかけることのないようにし、現存する2001年級を継続的に利用することが、アカガレイ資源、漁業、双方にとって重要である。

	2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	5,000トン	0.9C2008	—	—
ABCtarget	4,000トン	0.8・0.9C2008	—	—

資源評価のまとめ

- 卓越年級群である2001年級群は既に成熟した
- 西部海域の資源状態は良好である
- 今後、資源尾数・資源量を大きく増加させる要因は見当たらない
- 漁獲圧は高い状態ではない

管理方策のまとめ

- 2001年級群を継続的に利用することが重要
- 漁獲圧は現状以下に留める
- 富山以北では漁獲圧を下げるなどの措置を講ずることも必要

平成21年10月22日更新

資源評価は毎年更新されます。